

## 大臨技教育セミナーに参加して 平成23年7月16日(土) 関西医科大学附属滝井病院

大臨技セミナーに参加するのは今回で2回目です。1回目はまだ臨床検査技師の免許も持っておらず、病院以外にどのような職場や職業があるのかもよくわかっていませんでした。従って、どのような場で検査技師が活躍しているのだろうと興味を持って聞いていました。

しかし今回は、より具体的な仕事内容や検査の中身に関心を持って聞くことができました。

もっとも興味を持ったのが POCT についてのお話でした。POCT についてはどのような検査かわかっていたつもりだったのですが、POCT コーディネーターや日本における POCT の現状や問題点をお聞きして自分の認識が不十分であると感じました。POCT は簡便で検査場所を問わず誰にでも測定でき便利なので導入が進んでいます。しかし日本では、機器の管理やデータの取り扱いのガイドラインや規制が確立しておらず、またそれらを管理する POCT コーディネーターの養成や教育も不十分であるなど、重要な課題をクリアしていく必要があります。そして、これらの問題点を解決する上で最も大切な役割を担う POCT コーディネーターの養成は日本でも既に始まっているのですが、アメリカに比べると非常に遅れていると感じました。

臨床検査機器メーカーの仕事内容にも興味がわきました。まず臨床検査の分野でも日本の企業がグローバルに活躍していることを知り日本人としてとても誇らしく思いました。さらに臨床検査技師は、実際の臨床の現場を知っているところが強みで、理学部や工学部出身者とは異なったポイントから臨床検査機器の研究・開発に携わることができるため、なくてはならない存在となっていることを教えていただきました。

臨床検査技師という職種の世界における位置付けをより深く理解できたように思いました。

大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻  
生体情報科学講座 予防診断学研究室  
前期課程1回生 川端 麻友美

